



「雑草という名の草はない」



NHK 連続テレビ小説「らんまん」が終了します。偉人と同じ姓というのは、誇らしいと思う反面、おこがましくもあります。小学生のときに伝記を読んだくらいで、実は牧野富太郎博士の生き様、人となりは知らないでいました。牧野博士が残した有名な言葉で、人となりが分かる言葉です。

当時 20 代だった山本周五郎が「雑草」という言葉を口にしたところ、牧野博士は、なじむような口調で次のようにたしなめたのです。

「きみ、世の中に「雑草」という草は無い。どんな草にだって、ちゃんと名前がついている。わたしは雑木林（ぞうきばやし）という言葉がキライだ。松、杉、檜（なら）、楓（かえで）、欒（くぬぎ）——みんなそれぞれ固有名詞が付いている。それを世の多くの人々が「雑草」だの「雑木林」だのと無神経な呼び方をする。もしきみが、「雑兵」と呼ばれたら、いい気がするか。人間にはそれぞれ固有の姓名がちやんとあるはず。人を呼ぶ場合には、正しくフルネームできちんと呼んであげるのが礼儀というものじゃないかね。」

どんな植物にも固有の名前がある。それを無視して「雑草」「雑木林」などと人間にとって要不要だけで分類するのは、おこがましいという主張です。

山本周五郎はこの言葉が胸に刻まれたようで「これにはおれも、一発ガクンとやられたような気がしたものだ。まったく博士の云われるとおりでと思う。」と振り返っています。

牧野博士は、差別をしない、現代においてSDGs（持続可能な開発目標）の先駆者でした。人間と自然環境がどう向き合っていくかを問いかけ、一つしかないこの地球で暮らし続けられる「持続可能な世界」を実現するために進むべき道を考えるという思想を、当時から持ち合わせていたといえます。

「ジェンダー教育」「男の子は強くあれ？女の子はしおらしく？」



9月27日の学校運営協議会（こども園部会）で話題になりました。

各国の男女格差の度合いを指数化して順位をつける「世界ジェンダーギャップ指数」日本の順位は149カ国中110位。女性活躍推進が叫ばれる中、まだまだ格差が大きいのが日本です。最近の教育現場では、子どもたちにジェンダー平等の意識を持ってもらうよう、性別による差のない対応に気を配っています。しかし、ママやパパは（特にパパ）旧来の教育を受けてきたために、ジェンダーについて子どもに教えることに不安を感じています。

ジェンダーとは「社会的性差」のことです。性別の違いによって無意識に抱く役割や行動、考え方や見た目などのイメージのことを意味します。

このような男の子らしさや女の子らしさを、子どもを育てるうえで大切にしている親は案外多いものです。しかし、男の子が泣くことはありますし、わんぱくな女の子もいます。つまり、これからは性別よりも、個人を大切にしたい保育が必要だと言えます。

幼い子どもは、性別の概念があいまいです。固定概念や先入観がないので、自分の好きなものを自由に選べる時期です。そこで、幼児時期に周囲の大人が「男らしさ」や「女らしさ」を押し付けてしまうと、子どもはジェンダー差があることを自然と受け入れてしまいます。だからこそ、幼い子どもにはジェンダー平等を意識した声かけを行い、子どもが自分らしさを尊重できる環境作りが大切です。

園では、出席簿の男女混合、運動会の種目も男女混合を考えています。私は昭和30年生まれで、「男子厨房に入らず」世代ですが、今ではすっかり厨房で食器洗いをしています。

10月 2日(月)から 10月 6日(金)までの予定

- 2日(月) 後期始業式 身体測定(3~5歳)
- 3日(火) 就学時検診(5歳) 歯科検診(0~3歳)
- 4日(水) 身体測定(0~2歳) 歯科検診(4・5歳)
- 5日(木) 就学時検診吟味検査(予定)
- 6日(金) 就学時検診吟味検査(予定) 園長会議(端野、午前中)

前期が終了します。30日(土)は秋季休業日(学期間休業日)となります。

